幼稚園日記（三）

リリアン、ハーディ女史著
田中生抄譯

もう夏になりかけました、兒童達の荒れた土地はまだ花壇にはなりません。園藝作業に興味を持つてゐる或兒童が「それをするには私のお手傳ひが要るでせう」と言ひました、けれどもこの兒童はまだ五歳にしかならないのですからこの兒童一人位のお手傳ひは物の數にもなりません。

他人を賴つてばかりゐる愚かな人に小言一つ言はず古い家の土臺を花園に作り變へて行くには激しい勞働と時間と忍耐とを多分に要します、而かも私達は傍觀者から侮蔑的の言葉を浴びせ掛けられるのでありました。

兒童の父親の一人と二人の友達が大概毎日夕方と土曜日の午後とに働いて下さるし兒童の兄さん達も五六人手傳つて下さつたので大分物になりさうになりました。而して私達は慾が出て成丈善い花園を作り度いと思ひました、私達の花壇は復活祭の飾物に適する樣な花を作ることは出來ませんでしたが室内で鉢に育てられた水仙が兒童達のお金で買つた百合と共に敎會堂へ運ばれました。

兒童等が時折小錢を持つて來ますのでクリスマス以來聖壇に花と蠟燭とを供へて置くことが出來ました。

一九〇七年四月――幼稚園へ出で下さるには貴方は先づ階段の下の石炭房の入口とでも思はれるやうな狹い小さい戸からお入りなさるのです、し

かし室内は兒童達が其處に居合せたら非常に面白いところなのです。

それは敎會堂です、而して若し貴君が金曜日の夕べ敎會で使用してゐる時それを御覽になつたらそれは兎ても幼稚園用にはならないとお思ひなさるでせう、しかし月曜日の朝には大々的の作り變へを行ひます、私は聖壇の前の室にリバティー、カーテンを引かせます、すると總べての長椅子や椅子や拜跪筵(テリングマット)等が見えなくなつて了ひます、それから小さいテーブルや椅子が出て來ます、それから人形、搖籠、洗ひ洒した椀、鑵、カナリヤ、鳩植木、ブラシ、塵取り、掃塵具等が續々と並べられます。而して敎會堂はすつかり家庭的(ホームリー)になつて了ひます。其處には非常に古風な二つの爐と二つの厠の滓溜(ほりだの)があります。この敎會堂は昔は二軒の茅屋であつたのです、それから大きな疊戸もあります、私達は今それを使ひませんが後に役に立つだらうと思つて居ります。

窓は都合のわるい事に上の方に附いてゐるのです、而してお剩(まけ)に少し小さいのです。

壁は中途に綠色の區劃板があつてクリーム色に塗つてありますので却々綺麗です。兒童は赤いカラとカフスをつけて長袴(オーバーオールズ)を穿いて居ります、母親達は週末にこれを洗つてやります。

私は目下十二人の兒童があります。

牧師さんが兒童を選びます、牧師さんは十九年間もカノンゲートで其職を勤めて來たので土地の人々とは懇意でした、牧師さんは始めの内はいゝ家の子供ばかりを選びました、土地の人々は皆非常に窮乏してゐるのですが外觀を顧慮して子供達は大抵清潔にしてありました。

私は毎日手と顏とを檢査しました、そして若し一定の標準に達してゐない時は洗ひ直させました この標準といふのは漸次高くなつて行きます、それですから私の許に最も長くゐた兒童が最も清潔(きれい)になつてゐるのです。

私は學校へ來て顔を洗はせられるのは不名譽事であると兒童に思ひ込ませやうと努めました。そして阿母さんにこれでは學校へ行つて洗ひ直させられるか何うか聞いてごらんなさいと話します。

私が休暇を得て他出する少し前の事でした。敎育に趣味を持つてゐる市の園丁が私達の花園に力を盡してくれやうといつてくれました。

園丁は賃銀なしで數名の人をよこして私達が地均らしをして置いた所へ赤い灰を敷き砂を入れ善い土壤を入れ草花の種子を撒いてくれやうとしました。私は花園から々な物を取り除いて今にそこが甚麽になるだらうと非常に大きな期待の眼を睜つて居りました。

園丁の子供は手紙で先生はそれにお關ひなさらぬやうにと言つてよこしました。

私は九時半から十二時半までしか授業をしませんでした、そして時としは午後になつて一人二人兒童を呼んでみることもありました。

併し私達の庭園が出來上つたら、お天氣のい、時には午前も午後も同じやうに私は兒童を皆呼ぶつもりです、そして園藝の作業を行つたり自由に遊び廻つたりしませう、何時でも事情が許せば戸外に出てゐることにしませう。

スノードロップや香紅花や櫻草や延命菊は最早花を咲かせました、そして兒童達は自分達の花に對して非常に強い興味を繫ぐやうになりました。

土ほぢりは大層嬉ばれます、兒童達はまア甚麽によろこんでゴミ（兒童達が土のことを斯ういふのです）を堀ることでせう。

吩咐けられた通りに兒童等は多量の土壤を掘り返したり篩にかけたりします、そしてそれを花壇へ運びます。

兒童達の內四人は四歲と五歲との間でした、その他の兒童はたつた三歲です、兒童達は本當に小さく見えるのです、そして兒童達の閱歷の限界は驚く程狹いのであります。

私はある素張らしい計畫を夢想して居ります、私の友人が貧乏人の爲めに休日なぞに遊びに來るやうな家を田舍に經營して居りました、私は私の兒童を皆でなければいくらかでも一週間ばかり其處へつれて行きたいと思ふのです、それは大仕事です、併し兒童達は甚麽に嬉ぶでせう。

私はこれで助手を得ることが出來ませんでしたが次の期から助手を一人得られさうな望みがあります、牧師さんは幼稚園を小學校にしやうとする下心があり、兒童達を十歳若しくはそれ以上になるまでも止めて置きたいのです。爾なつたら甚麽にいゝでせう、私は何うあつても兒童達を就學年齡の七歳まで止めて置くことに盡力いたしませう

三歳から五歳までの二年間は兒童は甚だ小さくあります、而して兒童達の生活して行く境遇には甚だ畏敬すべきものがあります。

一九〇七年五月二日――私達は一週間ばかりお休みにして居りました。兒童は今では總體で十四人になりました、近頃では少し混雜して不秩序になつたやうです――早くもう少し都合のよくなることが望ましうございます。私は一日なぞは口を利く暇もありませんでした、而して二日といふものはホンの少ししか口を利くことが出來ませんでした。斯る事情の下にある人は誰でも助手が欲しいと思ふでせう。私は本當に手がもう二本餘計にあるといゝなぞと思ひました。「ピンがチク〳〵刺して痛い」だの「私のレースを結んで頂戴」だのといふのが度々又それも都合のわるい時に起る訴であります。

私達の庭園は本當にいゝ所です、縱が九十呎横が二十呎ばかりもありませう、其處には午前と午後とに使ふ二つの運動場と芝地と多くの花畑と愉快な大きな砂床とがあります、いけないことには砂があまり深くないのです、そして底はいつも乾いてゐなければいけないのに何うも水が溜つて

ゐます、併し私達は唯それを持つてゐるといふだけでも大いに感謝せねばなりません。

水仙やニホヒアラセイトウや延命菊や九輪櫻は花が咲きました、兒童達は非常にうれしがつてゐます、目下のところでは些か嬉びすぎてゐるやうですが直き原の通りになるでせう。

這麼ことを言つても人樣が本當にして下さるでせうか、兒童達は草といふのは何であるか知らないのです、私は最初兒童が彩色繪の草を見て何が描いてあるか分らないといふことを知つて驚きました、それから私が私達の庭園に草を植ゑませうと兒童に話した時兒童達は私が硝子の話をしてゐるのだと思ひました。

兒童達は芝生を何と名づけるものだか知りません、私は兒童達に草がすつかり根付いて了ふまで草の上を歩いてはいけませんと申附けました、而してお互に草の方を指さして「あの上を歩くのぢやないの」と言はせ合ふやうにしました。

キング公園は兒童達の家からは歩いて十分も掛らぬ所にあります、ある兒童はもつと近くに住んで居ります。

兒童達の進歩發達して行く樣を睜つてゐるのは非常に面白いものであります、ある者は急速に變化します。

二三月前のことです、或日氣の重い鈍い男の子が言ひました、

「ハーディさん、僕の阿母さんは女です」

「さうですよ」

「それからヘンドリー叔父さんは男です」

「さうです、それぢやあなたの阿父さんは？」

「僕の阿父さんは阿父さんです」

「それぢや私は何ですか」

「あなたはハーディさんです」

這麼會話がありましたがもうこれ以上この男の子を啓發することは不可能であるやうに思へました。過日この男の子は庭園で釘を拾ひました、その

釘はハーディさんに上げるのよと他の者に言はれるとこの男の子は
「否、釘といふものは女の持つもんぢやない、釘は阿父さんに上げるものだ」
と言ひました、そしてこの男の子は阿父さんの許へその釘を持つて行きました。

保育入門（四）

四、幼稚園教育の原則

倉橋惣三

幼稚園の教育は一般教育の原則に從ふべきは勿論であるが、特に幼稚園教育の特質として、缺くべからず又超脱すべからざる四つの原則がある。それは卽ち

（一）、自發的なるべし
（二）、相互的なるべし
（三）、具體的なるべし
（四）、習慣的なるべし

といふことである。

（一）、自發的

幼稚園教育が自發的なるべしといふには、更に細かく分ければ次の如き諸種の意味が含まれて居る

（い）、先づ第一に、幼稚園に於ける幼兒の生活は、他から强ゐらるゝものでなくして幼兒みづからの心から發するものでなければならない。何一つするにしても、いや〳〵ながら餘義なくするとか、乃至いや〳〵といふ程でなくとも、他から促されるから機械的に動くといふ樣のことであつてはならない。どこまでも內から動いて來るのでなくてはならない。――ならないといふよりは、幼